

# マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

もう2月です。長かった梅雨の代わりなのか、冬の晴天が続いています。あまりにきれいな冬の青空の連続に驚き、嬉しく、一方で地元の大雪を考えると恐縮し、申し訳なく思ってしまう。そして、異例続きの1年を無事に過ごせたという安堵感と、残り1ヶ月半という寂しさが加わり、大変複雑な心境で、この原稿を執筆しております。

私は、10月末から2月上旬までの約3ヶ月半、自治大学校の研修課程を受け、先日、無事卒業することができました。

研修開始前は緊張していたと思います。春から寮に住み、寮生活には慣れているし、研修運営を一通り担当していたため、研修の雰囲気もある程度つかめていたはずですが、期待と不安で落ち着かなかったことを記憶しています。いざ研修が始まってみると、講義に演習に交流にと、大変忙しく、その忙しさが嬉しくもあり、研修開始前の不安を忘れるほど楽しく研修期間があつという間に過ぎていきました。

コロナウイルス感染拡大により、研修前半はGOTO、後半は緊急事態宣言と、研修期間の前半後半で様子が大きく変わり、行動の変化が求められた研修であったと感じます。卒業が近づくにつれて、外出自粛や、会食の制限など、制約事項は増えていきましたが、研修生活中は、オンライン(プライベートでも)、デリバリー、ご当地保存食(カップ麺等)をフルに活用し、工夫しながら不安を分かち合い、自治大巣ごもり生活を柔軟に楽しんでいたことが思い出されます。

同期生とのご縁もさることながら、コロナ禍であっても生活を共にしながら研修を受講する意義をあらためて認識しましたし、このような機会をいただいたことを大変有り難いと感じました。

マネジメントコースも残りわずかとなりました。研修を受けてみると、研修生目線からもう少し工夫すべき部分、対応を要する部分がよく分かります。コロナ禍での研修実施方法、寮生活対応も含めて、実体験を自治大内で共有し、次年度以降の研修に反映させ、研修をより良いものにしていければと思っています。

(K. Y)



(麗澤寮からみた自治大学校)